ちすぎて、佐野にてよめる、

いにしへのあとをばとをくへだてきてかすみかゝれるさ野のふなばし

〔蒲生氏郷紀行〕天津正しき二十の年、前關白おほいまうちぎみ（豐臣秀吉）入唐ゑたまひ侍らんともの仕たまふに、日のもとの武士のこりなく御供しはべるに、陸奥よりも立侍りけるに、（略）（中）佐野の舟橋につきぬ、里人の出侍りしにて、たづねとひければ、此はしにて昔人を戀ける人の、むなしく成し有樣、かうやうの事とかたるをきゝて、あはれにおもほえぬれば、

これや此さのゝ舟橋わたるにぞいにしへ人のことあはれなる

〔北國紀行〕佐野の舟橋に至りぬ、（略）（中）舟橋は昔の東西の岸と覺しき間、田面遙に平々たり、兩岸に二所の長者有しとなり、此邊の老人出て昔の跡を敎るに、水もなく細き江の形ありて、二三尺許なる石を打渡せり、枯れたる原に見わたされてそこと思へる所なし、

跡もなく昔をつなぐ舟橋はたゞ言の葉の佐野のふゆ原

〔岐蘇路記（上）〕高崎ゟ廿町前に、佐野へ行く道あり、高崎の東にあり、道より西に佐野村あり、佐野舟橋を渡せし川あり、名所なり、古歌多し、舟橋をつなぎし木なりとて、近き頃まで在しといふ、今はなし、

〔正德元年記〕倉賀野上の一里山の後に正六といふ村あり、それより東南の間、山の北の方へ引たる松山あり、定家杜といふ、其杜の下にある村を下佐野といふ、杜の上の方にあるを上佐野といふ、（略）（中）往古舟橋のかゝりたる佐野川に石臺の殘あり、今は舟渡なり、

〔藤浪記〕繩手を行くに南の方に佐野の舟橋の跡ありといふ、鳥川の上なり、（略）（中）佐野源左衞經世が住し跡も山際に在といへり、同じ邊に定家の杜などいへる所侍りと馬引けるをのこ語りぬ、

〔遊囊賸記二十二〕佐野舟橋ハ、鳥川ノ上流佐野村ニアリケル故ノ名ナリ、今ハ舟渡トナル、